

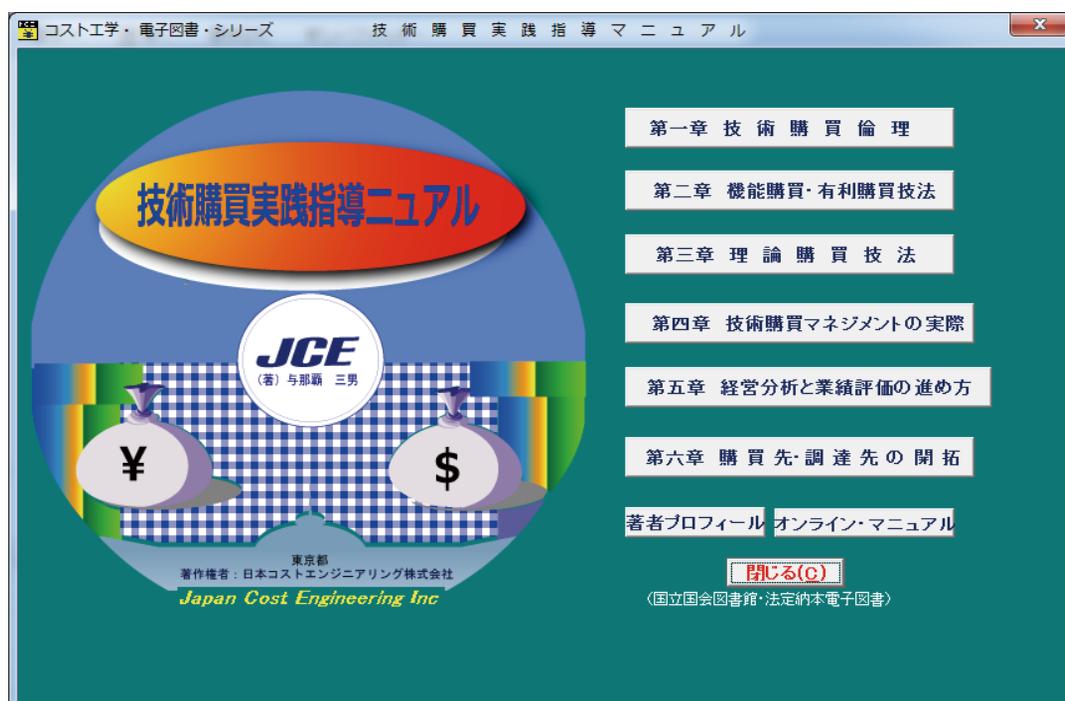
□コスト工学図書シリーズ !!

ズバリ !! 世間の水準、コストの標準が一目で解かる本

技術購買実践指導マニュアル

Defact Cost Standard Table

■与那覇三男 著



発行/日本コストエンジニアリング株式会社

〒145-0071 東京都大田区田園調布2-29-12
TEL: 0120-20-4783 FAX: 0120-40-4783

技術購買・実践指導マニュアル



web特価 84,000円 (税別、送料サービス)
 体裁A4版・340頁
 定価92,000円

第一章 技術購買倫理

1. 調達(購買)使命とその認識
2. 調達(購買)方針
3. 購買・調達計画の立て方
4. プロバイヤーの能力要件
5. 経営分析に関する必須知識

第二章 機能購買・有利購買技法

1. 設計仕様研究と機能購買技法
 - 1) 対象品目の価格情報分析
 - 2) 機能分析(機能系統図の作成)
 - 3) 機能系統図からの課題抽出法
 - 4) 最善化のアイデア発想法
2. 購買仕様と有利購買技法
 - 1) 機種別コストダウン計画
 - 2) 購入原価の実態定量分析
 - 3) コストダウンへの取り組み方

第三章 理論購買技法

1. 調達品・コスト購入実態情報
2. 理論購買の取り組み方
3. 経営管理改善テーマの抽出技法

4. 製造技術改善テーマの抽出技法
5. 経営管理改善テーマの抽出技法
6. 原価差額改善テーマの抽出技法
 - 1) 標準原価計算理論
 - 2) PCS・標準原価計算理論

第四章 技術購買マネジメントの実践

1. 原価差異分析の進め方
 - 1) 機種別原価実行状況の確認
 - 2) ユニット別原価割り込み達成状況
 - 3) 原価実行状況の確認
 - 4) 実績原価の入力BOM出力
 - 5) 標準/実績値の差額解析表
2. 差額要因解析の進め方
3. 原価差異の最善化技法
 - 4) 目標未達時の最善化法(生産管理面)
 - 5) 目標未達時の最善化法(外製管理面)

第五章 経営分析と業績評価の進め方

1. 経営実態の把握方法
 - 1) 経営付加価値の分析手順
 - 2) 付加価値分析技法
 - 3) 付加価値経営計画技法
 - 4) 付加価値指標の設け方
2. 業績評価の進め方と経営課題の抽出
 - 1) 業績評価の進め方
 - 2) 経営課題の抽出と方向性指摘
 - 3) 調達先別政策反映の手順
 - 4) 政策商談の進め方
 - 5) 個別商談の進め方
 - 6) 経営管理諸課題の共有と最善化指向

第六章 調達先の開拓法

1. 新規調達先の開拓
 - 1) 新規調達先開拓の意義
 - 2) 新規調達先開拓に必要な情報
 - 3) 新規調達先開拓の進め方
2. 海外調達先の開拓
 - 1) 国際購買と契約の進め方
 - 2) 国際購買における諸問題点と対策

ページ内容の抜粋例

2) 機種別調達計画とC/D計画



品目区分	年間計画金額	取組みの方向	対応技術とC/D目標	担当
購買品	原材料	買い方中心の商談	有利購買 商談技術	① V/A推進室 ④ 政策立案・実行室
	メーカ仕様の部品	購買政策		
	モーター 電磁弁	発注技術		
	チェーン類	購入条件		
	市販品	流通経路		
	電源 リレー	サプライヤー購買		
	スイッチ類			
	規格部品			
	ボルトナット			
	ブリー類			
副資材				
油類	万円/機		C/D目標 (万円/機)	
外注加工品	機械加工品	技談中心の理論購買	理論購買 評価技術	③ コスト改善指導室
	製缶・板金品	経営管理面の改善指導		
	組立て完成品	製造技術面の改善指導		
	組立完成品	製造管理面の改善指導		
	鋳造品・鍛造品	PCS基準構築と、差額改善指導		
	電装工事他	政策商談・個別商談 業績評価と成果把握		
	万円/機		C/D目標 (万円/機)	
社内加工・組み立て		効率化活動	IE技術	工場

② 購入コストテーブルの構成(機械加工品)

コスト構成内容	コスト変動パラメーター		標準	変動	変動率	
	主要材料費	加工費				
材料単価	材料種類・型番(内径、角径、半径、パイプ、アングル)、製造品、板材 購入形態: 定尺材、切羽材 購買方針: 国産/国内、他国、材料メーカー 購入条件: 支払条件(現金、手形)、梱包条件	材料使用量 大きさ・面積・体積・重量、肉厚、展開長 購入方法: 1回の発注ロット、納入数 材料形態: 型鋼(角棒、角棒、半鋼、パイプ、アングル)、鋳造品、板材 加工方法: 加工ロス、段取りロス、不良率、スクラップ	材料管理費 金利、徴送料、保管費用、検査費	○	○	○
所要時間	機械加工時間 正味加工時間 工具移動時間 ローディング時間 刃物交換時間 段取り時間	設備固定費率 設備償却費率 建物設備償却費率 建物税・保険料費率 電力費率 燃料費率 設備管理費率 清掃・保守費率 設備共通費率	労働費率 労働費率 間接労働費率 労働共通費率	○	○	○
所要工数	繰返し作業工数 段取り工数 付帯作業工数 定期(時)検査 (フリーセット)	設備共通費率 電力費率 燃料費率 設備管理費率 清掃・保守費率 設備共通費率	労働費率 労働費率 間接労働費率 労働共通費率	○	○	○
製造経費比率	直接作業へのサポート(生産準備、プログラム作成、作業管理)費用	労働費率 労働費率 間接労働費率 労働共通費率	○	○	○	
一般管理販売費比率・利益率	付加費(金型・専用治具費)	○	○	○	○	

本書では、購買倫理に始まり、購入コスト理論の理論武装、購買品へのコストダウンアプローチ法、取引先の改善指導要領、有利価格決定プロセスと商談の進め方、経営分析法と業績評価の進め方、新規購入先開拓の進め方、国際調達の進め方等々について著してあります。外部調達品のコストダウン必然性に直面したとき、徹底した理論武装から科学的プロセスを踏まえて「合理的な商談」を確実に実行推進する手法を収録してあります。

第一章では、購買方針の基でプロバイヤーの持つべき要件、必須知識の体系や持ち合わすべき能力・規範について述べてあります。

第二章では、購買対象品に対するV/A的機能購買、購買仕様からの有利購買技法について、その視点技法から改善策について著してあります。

第三章では、外製先に対し、経営管理面、生産技術面、原価管理面についての改善推進方法、水準把握、調達標準原価基準(PCS)の構築法、コスト算定技術など理論購買技法を著してあります。

第四章では、標準原価と実際原価の解析から差の要因を明らかにする技法、目標とするコスト水準達成のための生産面、管理面についての視点技法を詳述してあります。

第五章では、外製先の経営実態分析技法として付加価値分析や直接原価分析等の進め方、経営課題の抽出から改善指摘のしかた、その結果に基づいたときの業績評価手法、政策商談のしかた、個別案件に対する商談技術についてが著してあります。

第六章では、現調達先をさらに超越した新調達先の開拓手順海外調達先の開拓法、契約手順や問題点と対策法などについても記してあります。